

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200021		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム福美荘	ユニット名	福美荘A
所在地	長崎県五島市三井楽町濱ノ畔3185		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年10月16日	評価確定日	平成25年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人内GHの理念は「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します。」で取り組んでいます。これは、本人・ご家族の希望を取り入れながら利用者のペースを維持しながら支援していくことを基本にケアを行っています。職員側の決まりや都合を優先しがちな介護業務から利用者の自立を支援するために「どうすればよいか」日々考え行動することを目標にしています。そのため毎月職員の研修会を開催し知識や技術の向上に取り組み、研究発表会の開催など先進的な活動を行っています。介護の知識や技術の進歩が質の高いサービスにつながり、職員の「おもてなしの心」でケアすることに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム福美荘は2つのユニットがあり、職員個々の個性を活かしながら、両管理者とケアマネ等を中心にチームワークを深めてこられた。ご利用者の不安にも心を寄せ、明るく元気に対応する事で自然と笑顔になられる方も多く、他者への役割(お手伝い)の気持ち(優しさ)が表れている方もおられる。不安の背景にある思いも大切にし、家族の協力も頂きながら、自宅に帰る支援も行われている。リビングにカラオケを購入した事で歌を楽しまれる機会も増えており、歌が聞こえてくるとリビングに来られる方もおられ、団欒の機会を楽しまれている。ご利用者の願いを叶える取り組みも続けられ、長崎まで孫の結婚式に出席するための小旅行も実現する事ができ、神父様の慰問や敬老会への参加も継続されている。日々の生活でも、ご利用者の得意な事をして頂いており、「きびな」をおびいたり、ご利用者同士の助け合いも行われ、「家庭的な雰囲気」の中でお力を発揮できる取り組みが続けられている、“その人らしく尊厳のある生活を目指し”、職員全員で勉強する機会を増やしているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・目標は施設内に掲示して、朝の申し送り時に皆で唱和し、日々心に留め、実践につなげている。	お気持ちを傾聴する姿勢を大切にしている。ゆっくりと会話する時間も増え、“心に寄り添うケア”の実践に努めている。“その人らしさを、まだ見つけられていないかもしれない”という視点を忘れず、知識の向上にも努めている。「第二の故郷であり続けたい」と言う思いで、「ただいま」「おかえり」の日々の挨拶を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、回覧板を回している。また町内会行事(清掃活動・空き缶拾い等)にも、利用者と共に参加をし、地域の皆さんとの交流に努めている。	中庭でのミニレク大会には地域の方も参加して下さった。地域行事の参加も増え、町内の敬老会や野々切町の運動会等に参加し、飛行機も見学する事もできた。幼徳保育園や緑丘小学校、バハロア会等がホームに来て下さり、地域の方との交流を楽しまれている。全員が楽しめるように、ホームでチャンコを踊って下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事で運動会等の案内を出し、ふれあえる機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催。会議内容は実績・計画、ケアの取り組み等を報告している。	24年度からホーム単独で開催しており、家族交流会で家族の参加の仕方も検討された。法人内研究発表会の内容をお伝えしたり、ぜんざいを食べながらの会議もあり、和気あいあいとした会議となっている。ミニレクや敬老会など、会議の後の交流も楽しまれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議で実績、計画等を報告し、感想や意見、指示を受け、今後の運営に活かしている。	市役所には主にケアマネが訪問し、情報交換を行っている。市の職員とは顔見知りで、相談しやすい関係が作られ、ホームの中庭のミニ運動会では、市の方が競技にも参加して下さっている。生活保護担当者の訪問時には、利用者の生活状況をお伝えしたり、相談をするなど、連携を図る事ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や勉強会に参加して理解している。玄関の施錠は21時以降にしている。	運営推進会議の時にも、身体拘束の弊害について説明し、家族の理解を頂いている。日々、ご本人のペースで生活されており、さりげない見守りが続けられている。身体拘束に当たる行為の再確認と共に、スタッフ同士がそれぞれのケアの仕方をチェックし、アドバイス合うように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会に参加をして職員間でも虐待と思える言葉になっていないか注意を払うようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を受けている方はいないが必要な場合は関係者と話し合い活用できるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人支援相談員が利用者や家族に説明を行い納得した上で入所をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時や電話等で家族より意見や要望を伺うようにしている。また利用者の言葉や態度からその思いを汲み取るように努めている。	家族とは面会や電話の時に要望を伺っている。先々、ホームでの対応が難しくなった時の対応についてのお尋ねがあった時は、「母体施設での対応が可能である」事を説明し、施設長にも報告し、利用申込みの支援もしている。年に1回、家族交流会を開催し、意見交換を続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2度スタッフ会議で意見や提案を聞き、現場に反映させるように努めている。また緊急時等必要に応じて、会議を行えるようにしている。	職員個々の個性があり、お互いの個性を活かしながら、意見交換を深めている。職員から「介護記録の書き方」についての研修会や、ベッドメイキングの実技指導の要望があがり、全員(夜勤者を含む)が参加できるよう2回に分けて行われた。飾り付けや行事の意見もあがっており、職員で一致団結した取り組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は研修会や勉強会等の知識の習得の場を提供し、職員が向上心を持てるように機会を作ってくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームの勉強会や法人全体の勉強会も行っている。また法人外の研修会や講習会にも参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会に参加できるよう機会を作っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談員やケアマネージャーが本人や家族から聞き取りを行い情報を収集し、職員全員へ報告。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員やケアマネージャーが家族や本人より聞き取りを行い情報収集し、施設に馴染んでいただくよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の希望を聞き入れ必要とされる支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い年月をさまざまな経験を積み重ねて歩んでこられた利用者様より日々教わることもあり尊厳を忘れず、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話の際は状況説明を行ったり相談を受けたりと共に本人を支援していけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊や外出、墓参り等、家族や知人の方との交流を支援している。又、大師様参り等の行事等、支援をしている。	同郷の方が多く、昔話に花が咲く事も多い。孫の結婚式に参列するために長崎に小旅行された方もおられ、出発前後の体調管理は特に注意し、内服薬の準備等の支援も行った。教会や敬老会に家族と外出したり、食事をしてこられる方もおられ、老人会の方や友達も来て下さり、会話を楽しまれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操やレク等で皆さんと過ごす時間を作り職員が間に入り、コミュニケーションが取れるように、楽しく過ごせるように、配慮をしながら支援に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院中であれば見舞ったり、家族より相談等を受け、これまでの関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話や行動より、思いを汲み取れるように、職員間でも情報を共有し把握に努め、常に本人本位に考えている。	ご本人との会話を大切にしている。ご利用者の不安等にも心を寄せているが、明るく元気に対応する事で、自然と笑顔になられる方も多く、他者への役割(お手伝い)の気持ち(優しさ)が表れている方もおられる。不安の背景にある思いも大切にし、家族の協力も頂きながら、自宅に帰る支援も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から、これまでの暮らし方を聞き取り、親しみのある、穏やかな生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムやパターンを日常の行動より掴み、出来ること、出来ないことを見極め常に言葉や表情等からその日の状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を踏まえたプランの作成をし、カンファレンスやモニタリングを定期的に行い職員からも聞き取りをして、現状に即した介護計画を作成している。	「先では一緒に暮らしたい。できるだけ身体レベルを落とさずしてほしくない。今できることは頑張らせてほしい」等の希望を受け、介護計画に反映させている。“外出の支援”“毎月の神父様の慰問”“洗濯物たため”“新聞折り”等も計画に盛り込まれ、「歩きたい」と言う希望を大切に、日々のリハビリにも取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には全職員に目を通してもらい、プランチェック表、水分・食事摂取量、排便等の記入も行い、状態変化時は速やかにスタッフ間で話し合い、対応・見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて柔軟に対応出来るように、必要な支援をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催し事に参加できるよう努め、外出の機会を増やせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族のかかりつけ医が離れている場合もあり、その際は、本人・家族の納得の上、新たなかかりつけ医の決定を行っている。	受診時は主にケアマネが同行しているが、病状によっては職員が同行し、他の職員も含めて医療連携が図れるようにしている。少しの変化も見逃さず、医師に情報提供が行われ、できるだけ薬に頼らないよう、不必要となつたらすぐに医師に相談している。必要な時は不定期で往診して下さっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は勤務していないが、老健の看護師に利用者の状態を伝えて相談し、アドバイスを頂くこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態を把握し、病院関係者との情報交換に努め、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族やかかりつけ医と相談、話し合い、方針を共有し最善を尽くせるようにしている。	職員の観察力も増しており、必要に応じてケアマネに報告が入る。重度化や終末期への意向をご本人や家族に聞いており、「少しでも長く福美荘で」という言葉を頂いている。かかりつけ医の方針を優先しながら、ホームでの対応が可能な限り取り組まれており、施設長にも相談し、老健等の紹介も行われている。ホームでの看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から利用者の心身の状態を把握し急変や事故に備えて対応ができるようにマニュアルを読んで、応急手当等の実践に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に通報、消火、避難訓練の実施をしている。近隣の方の参加もあり、協力体制はできている。	各部屋に非常用持ち出し袋を準備し、避難誘導の目印として蓄光シールの誘導表示も設置された。定期訓練以外に自主訓練も行われ、手作りの頭巾をかぶり、ご利用者も一緒に訓練をしている。スプリンクラーも設置し、夜勤時の防災チェックも続けている。ホームにも食料等を保管し、母体施設等からの応援体制もある。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄や入浴においては、プライバシーに配慮した声掛けを心掛けて対応している。	一人の人間として敬い、対応する事を大切にされており、日常の場面においても、傷つような言動は避けるようにしている。ご利用者のペースや性格に合わせたケアを心がけ、妄想などの訴えも否定せずに受容している。早口にならないように、「声を出す前に一呼吸…」と言う言葉を職員同士で伝えあい、効果も出てきている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分で決められるように雰囲気作りを行い、本人の希望や要望はできる限り支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごしていただいている。食事や入浴の時間においても状態に応じ、希望にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で衣類を一緒に買いに出掛け、おしゃれを楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの食物を取り入れながら利用者と一緒に材料の下ごしらえ等を行っている。	きびなの調理やツツ剥きもご利用者の役割となっており、食器洗いもして下さっている。切干大根やお芋の郷土食も食卓に登場し、家庭菜園の野菜など、旬のものも採り入れている。焼肉プレートを使用しての料理や出前を楽しまれ、お庭での昼食会や手作り弁当を持って外で食べる機会も作られている。	ご利用者が重度化されており、今後も嚥下状態を把握すると共に、救急時の蘇生法の勉強も継続していく予定である。合わせて、今後も、食の楽しみを増やしていく予定であり、個別のお好みを伺いながら、日々の食事に反映させていきたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて食事や水分量を確保し、必要に応じて食事形態を変えたり、水分が取れない方にはこまめな水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	忘れていた利用者には、声掛けや誘導を行い、自分でできない利用者には、介助して口腔ケアに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、介助の必要な方には声掛け誘導を行っている。自力排泄者にも排便確認をしている。	自立している方や布の下着を着用される方もおられ、トイレまでの移動が困難な方にはポータブルの使用も行っている。個別に応じた誘導を行い、リハビリパンツから布パンツへ変更でき、パッドも大から小へと変更できている。トイレの内側にカーテンを付け、羞恥心への配慮も続けており、失敗された時は優しく対応する等の配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物に繊維の多い物を取り入れたり、水分量の確認に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は好きな時間に入れるようにしている。今は午後からの入浴となっているが、行事等により午前中になることもある。希望に応じて毎日でも入浴できるように支援している。	テレビ番組の希望も配慮し、入浴時間を調整している。立位が困難な方には職員2人で対応したり、気の合う職員が対応する時もある。入浴中は会話が弾む方もおられ、要望に応じて同姓介助も行われている。入浴時は、皮膚トラブルを「しっかり見つけ、さりげなくケア」する事にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、寝具や室温の調整を行い良い眠りに入れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の内容を把握して配薬の際は薬トレイの名前・薬、服薬者の間違いはないか確認し誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に散歩、外出や買い物に出かけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事以外での外出を少しでも増し、本人の希望による買い物や外出に努めている。また、墓参りや盆、正月等、自宅外出・外泊の際は家族に協力して頂き支援している。	両ユニットとも、ホーム前の庭で日光浴したり、お散歩にも行かれている。季節に合わせた花見(アジサイ・桜等)や岐宿(魚津ヶ崎公園)、富江(たろう島)、大浜公園等にも出かけており、海に行くと、「泳ぎたい」「ミサ探りしたい」などの言葉も聞かれている。御大師様参りにもお連れし、知り合いの方と話が弾まれている。喫茶店でかき氷を楽しまれたり、地域の運動会にも出かけている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を置いている利用者が数名おられ買い物に出掛けた際は自分で支払いを済ませられるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親しい人への電話は、本人の希望があれば、いつでもできるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生けた花を玄関や食堂等に飾り、壁には四季に応じた飾り物や絵を掛けて、季節感を感じていただけるよう努めている。	玄関には、観葉植物やご利用者が活けて下さるお花が飾られている。家族も植木を鉢ごと持ってきて下さり、ホームで育てる内に花を咲かせる事ができ、家族も喜んで下さった。リビングの席にも配慮し、廊下と玄関のソファは、ご利用者が語り合う場となっている。リビングで料理番組を見ながら会話が弾む時も多く、食事作りのお手伝いを楽しみにされている方もおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関口に設置している長椅子で涼を取ったり花や景色を眺め、ゆったりと過ごされる方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真等、馴染み深いものや好みの品物を飾り、希望に応じて家具類の配置を変える等、気分よく過ごせるよう支援している。	一方のユニットでは、居室のドアが廊下側に開く構造のため、廊下を歩かれている方に当たらないよう配慮して開閉している。お位牌、マリア像、ロザリオと共に、アルバム、家族の写真、整容道具(くし・鏡・化粧品など)の持ち込みがあり、お部屋のレイアウトも、ご本人や家族がされている。敷布団や毛布等を持参している方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等に設置された手すりを利用していただき、自立に向けた支援に努めている。		